

えほん

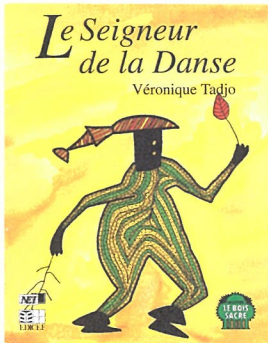
「アフリカの絵本ってどんなの？」

この絵本展では、ベナン・ブルキナファソ、コートジボワールなど、かつてフランスの植民地だった西アフリカの国々で出版された絵本を展示します。じつはこうした国では出版がとても困難で、販売されている本の90パーセントがおもにフランスからの輸入です。ここに展示するのは、そうしたなかでも現地の作家や画家がアフリカの子どものために手がけ、現地で出版した貴重な絵本たちです。これらの国々ではフランス語が公用語で、子どもたちは学校ではフランス語で学びます。そのため絵本もフランス語で書かれています。はるか遠くに感じられる「アフリカ」ですが、絵本たちはアフリカの子どもをとりまく社会や文化について教えてくれます。そして日本と同様に世界の一部であるアフリカについて考えさせてくれます。



村田はるせ（アフリカ文学研究者）

保育士として勤務の後、青年海外協力隊として西アフリカのニジェールに派遣されて活動。その後、東京外国語大学でアフリカ文学を研究（博士(学術)）。現在はアフリカの絵本を全国各地で展示・紹介している。（富山県在住）



『おどりの神さま』
ヴェロニク・タジョ

“Le seigneur de la danse” Véronique Tadjio

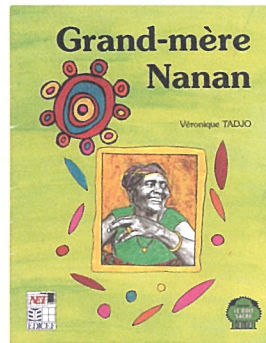
コートジボワールの民族セヌフォの神さまは、昔も今も人々に語りかけ、いっしょに踊ります。



『魔法のとうもろこしのたね』
ヴェロニク・タジョ

“Le grain de maïs magique” Véronique Tadjio

ソロがもらったとうもろこしの種をホロホロチョウが食べてしまいました。ソロが追いかると、あら不思議、素敵な出会いがありました。



『おばあちゃん』
ヴェロニク・タジョ

“Grand-mère Nanan” Véronique Tadjio

子どもが大好きで、お話をたくさんしてくれるおばあちゃんは、なぜかいつも人形といっしょです。



『ムカと白人の小さい飛行機』
アンソムウィン・イニヤス・イエン

“Mouka et le petit avion du blanc” Ansomwin Ignace Hien

耳が不自由でひとりぼっちだったムカは、村に飛んできたヘリコプターに魅了され、すばらしい模型を作り上げました。



絵本の読み聞かせ会

絵本のなかにはどんな物語が書かれているのでしょうか？アフリカで集めた絵本のおはなしを村田はるせが日本語に訳して読みます。そして写真や現地の工芸品などをお見せしながら解説します。申込み・参加費は不要です。



絵本のなかの世界にご案内します！

日時 / 1月18日(水)・24日(火)
16:30 ~ 17:30

場所 / 金沢大学附属図書館3階
ポラリススタジオ



金沢大学附属図書館 中央図書館
〒920-1192 金沢市角間町 TEL / 076-264-5211

【お問合せ】 粕谷雄一（国際学類教授）
ykasuya@staff.kanazawa-u.ac.jp